

【資料6】

各自治体の成功事例

滋賀県甲賀市

笑察《省察》カフェ

【専門職の悩み】×【おとなの学び】

目 的：対人専門職のスキルアップ、
エンパワメント
省察的实践家の育成

契 機：複雑、困難なケースに対する
解決能力や多職種連携の必要性

内 容：対話によるラウンドテーブル、
気づきとふりかえりの言語化

頻 度：3か月に1回

場 所：随時

主 催：KOKAプロボノの会



滋賀県甲賀市

支援者のレベルアップ

開始の経緯

- ・ 支援者から、勉強の場が少ない等の声が聞かれていた。
- ・ 受け身の勉強会ではなく、主体的に語ることに焦点を当てた勉強会を実施したかった。

周知方法

- ・ 保健・福祉に関する情報を発信しているフェイスブックアカウントがあり、そこに情報を載せている。（市公式のものではない。）

運営方法

- ・ 終業後に市職員が任意で実施している。

現在の状況

- ・ 3 か月に 1 度開催。
- ・ 毎回 20 人ほどが参加。（1/3は市職員）
- ・ 参加者は保健師、看護師、社会福祉士、介護士など。
- ・ 多職種の情報交換の場にもなっている。

福岡県 久留米市

第1部 つながり・支え合いのある地域共生社会

コラム 多世代が混じり合い「〇〇し合える」地域へ (福岡県久留米市)

今、地域社会では、つながりの希薄化や、複合的な悩みを抱える世帯の増加など、様々な課題に直面している。そんな中で、多世代の交流や居場所づくりなど、住民主体の多様な活動を次々と生み出している福岡県久留米市の取組を紹介する。

多様な市民活動が生まれる工夫

久留米市は、人口約30万人の中核市であり、福岡県内では3番目の人口を擁している。市は、住民・民間団体・企業・市等が共に地域の課題を解決する「協働のまちづくり」を目指しており、地域コミュニティ組織による活動や事業を後押しするよう財政的な支援を行っている。また、地域課題の解決に取り組む人、自身の興味関心から地域活性化に関わる人など様々な考えを持つ人が出会う場づくりにも力を入れている。住民が主体となって繰り広げられている活動として、次のようなものがある。

・「本業+αプロジェクト」

本業に「+α」を加えることで、様々な人が集える居場所を増やしていくという発想のもとで生まれたプロジェクト。例えば、本業は当地の伝統工芸である久留米餅（かすり）屋、それにプラスして駄菓子屋、さらにプラスしてまちの「居場所」「相談場所」。いくつもの顔を持つ店舗を発掘していくことで、子どもから高齢者まで多くの人が集い、緩やかに見守り合えるまちづくりを目指している。

・「久留米10万人女子会」

10万人の女性が女性自身の課題解決や地域のつながりを形成することを目的にスタート（久留米市の成人女性人口は約13万人）。活動を重ねる中で、地域で見逃されている課題に着目した新たな取組が生まれている。例えば、「近くにスーパーがない」との声に応じて、移動販売を行ったり、「水害が心配」との悩みには危険箇所を見回るお散歩ラボ会を開催したり。地域の困りごとを皆で話し合い、解決している。

・はじロマ会

「地域福祉って何？」という問いへの答えを模索していく中で生まれたお話し会。フリーランスを中心とした民間団体、久留米市社会福祉協議会、市で協働して開催している。特定の目的や成果は設定せず、参加者はただ「ロマンを話す・ロマンに浸る」だけ。初めて会った人同士なのに、ロマンを通した対話によりすっきり打ち解け、終わる頃にはずっと前から知っているような関係に。会で知り合った者同士が各自の得意分野を持ち寄った事業を始めるなど、新たな取組が生まれるきっかけにもなっている。



・じじっか

「実家よりも実家」をコンセプトにした子育て拠点。「ひとり親、ふたり親ではなくて7人親」を目標に、地域の方・企業などの協力を得て、ひとり親家庭への食事提供や、使わなくなったおもちゃのプレゼントなどを行っている。他にも、「3人4脚プロジェクト」、「欲望形成講座」等のユニークなネーミングで様々な活動を展開している。じじっかに行くと、おなかいっぱい食事ができたり、何気ない日常を共に過ごす人がいたりする。まさに大家族のような、人とのつながりの豊かさを実感できる場となっている。

広報による後押し

こうした様々な取組を多くの市民に知ってもらうことも重要だ。市では、地域福祉マガジン「グッチョ」を発行し、住民の多様な支え合いを広報している。「グッチョ」とは、

福岡県筑後地方の方言で「何かを一緒にし合う」という意味。市で起こっている「〇〇し合う」取組みや、それに関わる人の思いを取り上げることで、「いい話だね」、「それならできそう」と共感が生まれている。それがさらに、地域で多様な活動が生まれる可能性にもつながる。



グッチョ創刊号。一人の高齢者の自主的な活動から「見守りつつ、見守られている」姿を紹介。



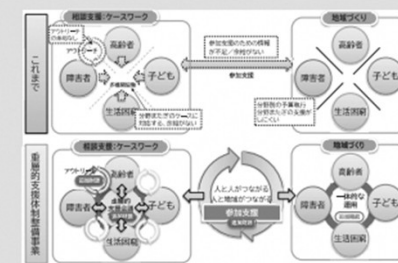
支え合いのまち久留米を目指して
久留米市には、地域住民・民間団体によるインフォーマルな力に支えられた個性あふれる活動が息づいている。市では、こうした住民主体の取組みの下支えを行うことで、「制度の心強さ」と「地域ならではの安心」、両方のいい面が混じり合い、地域住民・民間団体・自治体が相互に「〇〇し合い」支え合える地域を目指している。

第3章 「つながり・支え合い」のある地域共生社会の実現を目指して
「つながり・支え合い」のある地域共生社会の実現を目指して

（3つの支援を一体的に行うことで、相乗効果がもたらされる）

①相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を市町村が一体的に展開することにより、相互作用が生じ、支援の効果が高まることが期待される。例えば、地域づくりに向けた支援を通じて、地域で人と人とのつながりが生まれやすくなり、周囲の人が課題を抱える本人に声をかけることなどを通じ、「相談支援」へ早期につながるなどが考えられる（図表3-2-4）。

図表3-2-4 3つの支援を組み合わせることによる効果



【出所】三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「重層的支援体制整備事業に係る自治体等における円滑な実施を支援するためのツール等についての調査研究報告書」（2021）
資料：厚生労働省社会・援護局作成

福岡県久留米市

広報による福祉サービスや事業の周知を実施。

開始の経緯

- 令和3年4月から実施。
- 広報課での経験がある職員が一般の方が気づきにくい福祉のことにも光を当てたいと始めた。

周知方法

- 発行時に久留米市の公式ラインで周知。（受信要望設定があるため、福祉の受信を希望している人にしか通知は届いていない可能性がある）
- 協議会で周知しており、そこから口コミで広がっていることも考えられる。

運営方法

- 取材先の発掘、取材、編集、発行まで、すべて市職員が実施。

現在の状況

- 1～2か月に1回発行。
- 予算がついていない事業であるため、基本的にはWeb上でのみの公開。
- 発行時に数冊印刷し、窓口に置いている。

岩手県 北上市

コラム 地域のネットワークによるひきこもり支援の強化！ (岩手県北上市)

岩手県北上市では、地域の人々との意見交換等を通じて、ひきこもり対策の必要性を強く認識し始めていた。このため、北上市をあげて、ひきこもりに特化した対策を推進することとし、2020（令和2）年8月に、「北上市ひきこもりネットワーク協議会」を設置した。

北上市ひきこもりネットワーク協議会

北上市ひきこもりネットワーク協議会は、行政機関及び支援関係機関から構成されるプラットフォームであり、関係機関の連携強化、専門性の向上や支援施策の検討を協議会の主な機能としている。

協議会の設置により、各関係機関の担当者が、他の機関の取組内容やひきこもりに関する情報を共有できるとともに、お互いに顔が見える関係となったことから、以前よりすみやかに連携し、課題に関して前向きに取り組めるようになった。

また、参加者の負担が重すぎることにならないよう、効率的な会議運営に留意しており、協議会自体で個別のケース解決をするのではなく、関係者同士がすぐに連絡できる関係づくりの場、情報共有して他の関係機関が持つ有益な意見や情報をもらう場として特に効果的に機能している。



北上市ひきこもりネットワーク協議会

アウトリーチ支援

北上市のひきこもり対策では、能動的な支援であるアウトリーチ機能が不足していた。このため、2021（令和3）年度から、北上市社会福祉協議会への委託事業によりアウトリーチ支援を開始した。

同協議会では、アウトリーチ支援員を配置し、関係機関や当事者家族等からの情報をもとに、本人・家族に自宅訪問を行っている。

当事者との関係づくりは時間がかかることが多く、森の手入れの手伝いをしたり、詐欺の注意の呼びかけと併せて自宅に伺うなど、様々なきっかけを作ってアプローチを繰り返している。様子を見ながら訪問を重ねても、当事者から支援を拒否されるケースもあるとのことである。

試行錯誤をしながらも、アウトリーチ支援によりすみやかに必要な支援につなげ、社会とのつながりを回復してほしいとの想いの下、取組を継続している。

居場所を通じてみんなを笑顔にしたい！

ワラタネスクエア

北上市のひきこもり支援には、「居場所」機能も不足していた。

北上市には、従来から任意団体「笑いのたねプロジェクト」が独自事業としてひきこもりの方などの居場所づくりに取り組んでいたが、対象者も限られ、開催も不定期であった。

このため、北上市と連携し、市の委託事業として「居場所」を強化することとし、2022（令和4）年度から、アクセスの良い市の中心部に常設の居場所「ワラタネスクエア」を開設することができた。

ワラタネスクエアを運営するNPO法人ワーカーズコープの後藤所長も、ひきこもりの子どもを持つ親として奮闘した経験があり、ひきこもり状態にある本人やご家族が誰かとつながりたいと思ったときに、気軽に行ける居場所が必要であるとの思いから居場所づくりに取り組んできた。

誰もが気軽に入れるように敷居を低くすることが重要であり、入り口は雑誌や書籍を販売する一般の店舗にして、買い物ついでに相談できるようにしている。また、居場所の中ではリラックスして過ごせるように、自分の好きなことをしててもまたは何もしなくても大丈夫としている。ただ1つのルールは、みんなの話を否定しないことである。

後藤所長は、「あるがままの自分を受け止めてくれる居場所があれば、誰もが自分のペースで社会とつながりを持てるようになる。この居場所を通じてみんなを笑顔にしたい」と想いを語っている。



ワラタネスクエア

子育てをするみなさんの応援団でありたい！

わらすば

「わらすば」は、NPO法人わらすばが運営する居場所である。

大内理事長は、高校教諭の時に、学校の枠を外れて中退していく生徒を多く見てきた。そういう生徒がひきこもりにならないように

したいとの思いから、子どもが小さい頃から様々な関係づくり、居場所づくりに取り組んでいる。

居場所の利用者は幼児から高校生まで幅広く、「子育てをするみなさんの応援団でありたい」との考えから、こどもの居場所事業（預かり）でも親の仕事の有無に関わらず受け入れている。先日は結婚記念日ということで乳幼児を含め4人のこどもを預かっていたとのことである。

「時間的な余裕を持つことで、まとめて家事をすませたり、家族で温まる時間を過ごしてほしい」と切に願っている。

今後ともひきこもり支援を推進

このように、北上市ではひきこもり対策の大きな一歩を踏み出したところである。ひきこもり対策は、個々の家庭生活環境や本人家族の考え方も様々であり、他の分野にはない難しさがある。北上市の担当者も手探りで進めているとのことであるが、北上市の関係者、関係機関の前向きな挑戦に今後も期待したい。

（支援にあたっては、支援者と本人が継続的につながる「伴走型支援」の形が求められる）

実際に課題を抱えた人に対する支援は、地域において、本人と支援者が継続的につながり関わり合いながら、本人と社会・他者との関係を広げていく「伴走型支援」が求められる（図表3-2-6）。

相談支援が包括的かつ個別に行われるためには、一人ひとりの課題や支援ニーズを的確に評価・分析した上で、地元の関係機関と密接に連携しつつ、適切な支援につなぐコーディネーターとしての役割を果たす地域の支援者等の存在が欠かせない。今後、社会福祉法人やNPO等の職員も含め、地域の支援者等の確保に向けた取組を進めるべきである。また、地域生活の中で一人ひとりに寄り添った支援をしていくためには、医療・介護・福祉の専門職による職種や分野を超えた連携が求められており、それぞれの専門資格の養成課程において共通の基礎的な知識や素養を身につけるとともに、一人の人材が複数の分野にわたる専門的知識を習得できるような工夫（複数分野の資格の取得、学び直しや中高年の参加の促進も含む。）の検討が必要である^{*5}。

*5 複数資格に横断的な1年程度の共通となる基礎課程を設けることにより、多職種連携や地域・社会活動など地域共生社会を担う人材の育成を図るとともに、医療・福祉人材に新たなキャリア像を提供することができると期待されている。また、既に資格を取得されている方に対しては、他の資格を取得する際に履修免除の活用や、単位認定の拡大が行われている。

岩手県北上市

居場所づくり

開始の経緯

- 令和2年以前、「市長と語る会」という会で引きこもりについて居場所がないと意見が出ていた。厚労省の支援スキームにも段階的支援が必要と記載があり、市として足りていないものは何か考えた。ネットワーク協議会にて、能動的な部分ではアウトリーチが、受動的な部分では居場所がないということに気づき、市に答申として上げてもらった。その内容に対する施策としてワラタネスクエアが開始となった。

周知方法

- 市の公式SNSで周知。
- 運営事業所のSNS。
- 立ち上げ当時は、地元の新聞が取材にきたり、地元TVで特集が組まれたりしたため周知に役立ったと思う。

運営方法

- ひきこもり親の会「ワラタネ」が運営している。居場所を作るという話になった際に「やってみたい。」と声を上げてくれた。
- 労働組合法で、少人数の事業所でも法人格を取れるようになったため、法人格をとってもらい委託した。

現在の状況

- 年間のべ2,000人～3,000人の方が利用している。